



都立南大沢学園通信

～情熱・誠実・実践～

東京都立南大沢学園
校長 井上 美保
令和7年6月2日発行
6月号

自己理解を深める 主体的な進路選択

校長 井上 美保

6月になりました。今年度が始まって2か月が経過し、充実した生活を送れていますか？
学校には、皆さんを支えてくれるいろいろな職種の人達があります。その中でも最も関りが深いのが「先生」ですが、実は「先生」以外にも、皆さんが学校生活をスムーズに送るためにサポートしてくれている「経営企画室の職員」がいます。

経営企画室のスタッフは、学校運営に欠かせない存在であり、皆さんが安心して学校生活を送れるよう支援してくれています。

さて、そんな経営企画室には、この春、高校を卒業し新規採用職員として配属されたスタッフがいます。おそらく生徒の皆さんと年齢が一番近いのではないのでしょうか。

先日、業務の合間にサッカー部の練習を一緒に見ながら、こんな話をしてくれました。
「公務員になることを決めたのは、高校2年の時です。高校に入っところは、カフェの経営とか、おしゃれな仕事に就きたい。そんな夢を漠然と描いていました。しかし、ある時、進路選択に必要な情報を得るための自由選択講座が学校で開かれ、複数ある講座の中から公務員講座を選びました。

いつか働くようになるのなら早くお金を稼ぎたい。安定して長く働きたい。サッカー部のマネージャーとして部員を支えていたことから、裏で支える仕事が向いている。事務的な作業が得意。そんな自分が向いているのは公務員。高校を卒業してすぐに公務員になる。カフェの経営などは、夢の夢として目の前の現実に向き合っていこう。」と思ったそうです。

東京都に入庁して2か月が経過した彼女は今、『自分が選んで決めた職業だからこそ、自信をもって仕事ができている。働いてお金を稼いでいる自分は、大学生になった友達にも自慢できる。』と力強く語ってくれました。

皆さんの進路選択は、自分を知り自分を理解することから始まります。自分を理解するためには、多くの体験を積むことが大事です。コースや実習、行事、部活動など、学校生活の中で、自分の特性や得意なこと、苦手なことを知り、何が自分に合っているのか、主体的に将来を考えていきましょう。

先生たちは、皆さんのことを正しく理解し、適切なアドバイスをしていきます。誰の責任でもなく、自分が決めたことであるならば自分で頑張れるはずですね。

最後に、彼女は言いました。「私よりも生徒たちのほうが、ずっとしっかりしていると思います。なぜなら、私は目的もなく高校に入りました。でも、うちの生徒は、仕事に就くために南大沢学園に入学しています。だから、生徒のほうがしっかりしていると思います。」この言葉が鋭く心に刺さりました。

就労準備性と自己理解

主幹教諭 森川 崇

13期生(令和6年度卒業生)が、社会人として「働く生活」を始め、2か月が過ぎました。先日、13期生を対象に「社会人キャリアアップ講座」が行われました。通勤電車で混雑を避ける方法や、職場でお土産をもらった後の「お返し」のタイミングや、品物をどうすればいいか、休暇の取り方で気を遣う、など社会人としてのリアルな話題でグループ協議が進みました。「作業では効率を考えて、少し先を意識して行動している」、「自分で判断することが難しいことは、周囲に確認する」など言葉も聞こえてきて、頼もしさを感じました。

「就職」というと、仕事の技術の向上を重要視しがちですが、技術は職場でゆっくりと身に付けることが可能です。下の図は「就労準備性ピラミッド」と言われ、働くためには全体を支える、下段からの積み重ねが重要であることが示されています。

まずは健康管理です。十分な睡眠、体調管理、食事は社会生活の基盤です。日常生活管理として、決まった時刻に起きて活動することなどは、社会生活の基本です。挨拶、返事、ふさわしい言動での振る舞いは周囲と協調した活動を行う対人スキルにつながります。こうした土台の上に職場のルールやビジネスマナーを意識して守ることで、基本的労働習慣が築かれ、作業の正確性や効率、専門的知識、技術が磨かれます。

職業に関する教科、1年生の「トライアル」、2年生の「コース」の授業では、この就労準備性について自己評価と他者評価を行い自己理解につなげます。生徒の皆さんは、どこまで達成できているかを確認し、また、次の課題を意識してインターンシップや現場実習に備えましょう。

